◇　行　政　視　察　概　要　◇

委員会名	総務常任委員会	
委員名	［委員長］仲村　学 ［副委員長］木戸　徳吉 ［委　員］面村　好高 ［委　員］鞆岡　誠 ［委　員］吉田　尋子 ［委　員］松尾　武治 ［委　員］山下　秋則	
視察先	岡山県津山市	兵庫県宍粟市
視察日時	平成３０年８月６日（月） 午後１時３０分 ～ 午後３時３０分	平成３０年８月７日（火） 午前１０時 ～ 正午
調査事項	「津山シティプロモーション戦略」について	「宍粟市公共交通再編計画」と現状について
教示内容など （抜粋）	少子高齢化・人口減少社会を迎え、地方創生時代の観点から、全国の多くの自治体で我がまちのＰＲの為シティプロモーションに力が入れられている。その先進地として、津山市を訪れ視察を行った。 津山シティプロモーションは、目的として移住定住人口の増加と交流人口の増加の２本の柱で策定された。平成２７年度に移住定住プロモーションが戦略策定され、平成２８年度に観光プロモーションが戦略策定された。２本の柱とした理由は、ターゲットが違うからとのことであった。その内容は、明快でセンスの良いものである。 目的達成において一定の結果が出ているとのことであった。それは、大手広告代理店に因るところが大きいとのことであった。 本市でも同等の内容で戦略策定を行うのは、財源等大変困難な課題があると感じましたが、費用対効果を見極め、出来る範囲で良いところは早急に取り入れ、今後の本市のシティプロモーションに生かさなければならないと思った。 どの自治体でも人口減少に悩んでいる。その対策として、移住人口の増加を目指し対策を講じている。 津山市の取り組みで心に残ったのは、広告媒体を上手に使っていることである。斬新なポスターを制作し、都市の主要駅に貼り出し、目に訴えている。 また、キャッチフレーズも心に残るものとなっている。いかに、わがまちを発信するかである。 そして、次には、関心を持たれた方をどう招き入れるかである。今年と来年度にその取り組みをされる。	現在、本市のような中山間地域の交通手段は、自家用車に大きく依存している。 今後、より一層、少子高齢化・過疎化が予想される中、公共交通のあり方が問われている。特に交通弱者と言われる高齢者、障がい者、児童等は、日々の生活において、公共交通（バス）の利便性の向上が求められる。 そこで今回は、平成２９年地域公共交通優良団体大臣表彰を受けられた宍粟市からご教示を頂いた。広い面積を有する市域の公共交通空白地の解消を図るため、兵庫県下で初めて、市内全域をコミュニティバス等から事業者による路線バスへの再編を実施することにより、利用人員対前年度対比４割増を達成された。 本市でも利便性の向上に向け協議がされているが、利用者増加に繋がるダイヤ編成や運賃のあり方についてより一層、議論を深めて頂き、誰もが使いやすくて便利な公共交通網の構築に努めて頂くよう求めて行かなければならないと感じた。 鉄道が通っていないまちとして、移動の手段にバスを使う文化づくりを目指されている。 わが南丹市よりも広大な市域を有している。人口も３万８千人とよく似ている。 公共交通の再編を平成２７年１１月に実行された。事業者は、民間である。料金は、市内均一２００円である。学生等にも配慮された乗車券となっている。市として、平成２８年度決算で１億２００万円余りを支出している。 今後の取り組みとして、集落からの貨物（農産物）の集荷、集落への生活品、食料品の配達等目指しておられる。 今後、高齢化が進む本市においても、公共交通の在り方として大いに参考になる取り組みたいと思った。

◇　行　政　視　察　概　要　◇

委員会名	産業建設常任委員会	
委員名	［委員長］谷尻　昌史 ［副委員長］野村　健 ［委員］塩貝　孝之 ［委員］谷尻　宣雄 ［委員］平野　清久 ［委員］川勝　儀昭 ［委員］小中　昭	
視察先	富山県富山市	富山県南砺市
視察日時	平成３０年７月３０日（月） 午後１時３０分 ～ ３時００分	平成３０年７月３１日（火） 午前１０時 ～ 正午
調査事項	○コンパクトシティの取り組みについて ・コンパクトなまちづくりについて	○ブランド戦略について ・ビジネスマッチング等販路拡大支援事業について ・南砺ブランド商品開発支援事業について ・小規模事業者後継者支援事業について
教示内容など （抜粋）	人口減少・超高齢化と低密度な市街地・過度な自動車依存など、地域課題の解決に向け、いち早く公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりに取り組まれてきた。 富山駅を中心に放射状に延びる公共交通網は、富山ライトレールをはじめとする鉄軌道７路線、路線バス９０路線で、歩いて暮らせるまちを実現している。これらをベースに中心市街地の活性化につなげるべく、グランドプラザ整備や自転車市民共同利用システム、福祉施設整備などに取り組み、民間投資も併せて開発が進んだことから、平成２０年以降は転入超過を維持するなど、コンパクトなまちづくりの効果が表れている。 また、大きなハード整備ばかりでなく、街路景観を演出する花やフラッグ、花トラムモデル事業など、森市長の「人が動くのは、楽しい・美味しい・オシャレ」のキーワードのもと、魅力的な施策が展開されていた。 人口は、４１万７千人余で南丹市の１３倍、面積は約２倍の県都である。郊外の居住者が増加し、公共交通の利用の減少、自動車の利用増のもとで、交通環境、市民サービスの効率化をめざし、コンパクトシティ政策が推進されている。 特に、北陸新幹線の開業と関連し、ＪＲ富山駅への市内電車（あいの風とやま鉄道、ライトレール）の乗り入れと接続事業、バスを含めたＩＣカード乗車券の採用など、公共交通の利便向上と利用促進が取り組まれている。 市中心部の再開発を進めるとともに、「居住推進地区」を設定し、住宅を取得する市民に１戸当たり最大５０万円の補助金を出して、転入人口も毎年プラスになっている。 しかし、中心部から車で２０分のショッピングモールと隣接する新興住宅で子育て世代が多く、中心市街地への誘導も難しい現状もある。一方、山間部に近い地域では、地域自主運行を基本に１日２往復のバス運行を実施している。 南丹市とは、かなり条件が異なるため、何が生かせるか疑問が残ったのが率直な感想である。コンパクシティの具体化は、慎重に検討すべきと思う。また、ぐるりんバス等利用者の意向を重視した改善が必要である。	農林課、商工課、交流観光まちづくり課、文化・世界遺産課の４課が組織改編し、ブランド戦略部として一体的に地域ブランディングに取り組まれている。 商工関連では１８の助成・支援制度を設け、商工会やJAともそれぞれ連携を深めるなかで、南砺ブランド商品の開発、販売に取り組む。特に、様々なクリエイターが集まる、ワーキングスペースやオフィス、レンタルスタジオやカフェなどからなる複合施設「南砺市クリエイタープラザ」は、地方の中小企業や小規模事業者に不足している、デザイン力や情報発信力を支援する有効な手段であると感じた。 ブランド戦略と販路拡大について視察した。 平野部では、アルミ、建材などの製造業、山間部では建設業や観光などのサービス業の就業が高い。農業は、干し柿、里芋、そば、かぶらなどの特産品振興に取り組まれている。商工業は、若手経営者の育成、中小企業支援、商店街のにぎわい創出に努力。国指令の伝統的工芸品「井波彫刻」「五箇山和紙」、プロ野球選手用の木製バットの他、ブランド品認定商品など地場産業振興、起業家支援に力を入れている。 その具体的として、空き家活用型しごと場創出など１８の助成・支援制度が実施されている。特に、商工会任せにせず、伴走型支援として、市が商工会と連携を強め、積極的に関わっていることが重要と思った。

◇　行　政　視　察　概　要　◇

委員会名	厚　生　常　任　委　員　会	
委員名	［委 員 長］ 前田　義明 ［副委員長］ 柿迫　正紀 ［委　　員］ 麻田　育良 ［委　　員］ 木村　　裕	［委　　員］ 平田　聖治 ［委　　員］ 八木　信樹 ［委　　員］ 廣瀬　孝人
視察先	石川県小松市	福井坂井地区広域市町村圏事務組合
視察日時	平成３０年８月２日（木） 午後１時３０分 ～ ３時００分	平成３０年８月３日（金） 午前１０時 ～ １１時３０分
調査事項	○公立保育所の民営化及び認定こども園への移行について	○ごみ処理施設について
教示内容など （抜粋）	（公立保育所の民営化について） ・公立保育所を平成１８年から３２年の１５年間で、２５の公立保育所を２２カ所民営化する計画で、すでに１９カ所が民営化されていた。 ・民営化事業者の募集はスムーズに進んだのかとの質問に対し、実績のある法人が市内にいくつもあり、事業者の選定は順調に進み、民営化は計画に沿って進んだとのことであった。 ・本市では、民間事業者の数が少なく、その選定のところでストップしてしまう可能性があるが、小松市の民営化手順については、本市として参考になると考える。 （認定こども園について） ・小松市の幼稚園・保育所４２カ所のうち、認定こども園は３３カ所と比率が高い。 ・認定こども園への移行が進んだのは、加算が増えて運営費の確保につながることも要因として考えられるとのことであった。 ・小松市にとっては、運営費負担が増加するという影響が出ており、こうした面には留意する必要がある。 （その他） ・小松市自らが、「教育・保育施設」職員のキャリアアップ研修に取り組んでおり、施策水準の高さには注目すべきである。 民営化に移行するにあたり、小松市又は、県内に多数の受け入れ事業所があったこと。この事は、非常に重要であると思われた。福祉事業体も含めた勧誘、誘致活動されたようで、もし、本市が民間移行を考えるならば、積極的な誘致活動を図るべきである。 周辺部の園は、本市の状況から現状がベストと思われる。小松市においても、公営は周辺部のみになっていた。 また、規模的にも、やはり小さな所であった。民営化は性急に進めるべきではないと思う。	・３市１町からなる広域市町村圏で、ごみ処理施設を運営している。地勢等従来から結びつきのある市町で構成したものである。ただし福井市は、一般ごみ、資源ごみを自前で処理をしており、粗大ごみの搬入だけをしている。 ・ごみ処理施設に隣接して最終処分場を設置しており、効率の良い施設整備がされている。 ・圏域の人口は、約４０万人で、本市が周辺自治体とごみ処理施設を構想する場合よりも規模は大きい。 ・利便施設として、余熱利用のプール・浴場を運営している。 ・ごみ処理経費は構成する市町で負担しており、人口割２０％、基礎割１０％（構成市町で案分）、搬入実績割７０％となっている。 ・清掃センター総工事費178億8千万円（起債132億12百万円）、最終処分場総工事費68億24百万円（国県補助8億94百万円、起債43億87百万円）であった。 ・本市では、可燃ごみの処理については、来年4月以降近隣自治体による受け入れで対処するほかないが、長期計画で自前の施設を構想する場合、坂井地区広域市町村圏事務組合の事例は、参考になると考える。 ・近隣市町と連携して、本市のごみ問題は考えるべきである。

◇　行　政　視　察　概　要　◇

委員会名	議会運営委員会	
委員名	[委員長] 川勝　儀昭 [副委員長] 小中　昭 [委　員] 前田　義明 [委　員] 野村　健 [オブザーバー] 議　長　今西　不悖	[委　員] 谷尻　昌史 [委　員] 木戸　徳吉 [委　員] 仲村　学 [オブザーバー] 副議長　廣瀬　孝人

＊　議会運営委員会と議会活性化対策特別委員会との合同視察研修　＊

視察先	埼玉県飯能市	神奈川県秦野市
視察日時	Ｈ３０．５．２１（月） 午後１時００分 ～ 午後３時００分	Ｈ３０．５．２２（火） 午前９時００分 ～ 午前１１時００分
調査事項	①タブレット端末を導入した議会運営について ②議案審議の充実を図るための取り組みについて ③議会の透明性を高める取り組みについて	①議長・副議長選挙の所信表明公開の実施について ②タブレット端末の導入および活用について ③議場の多目的利用について
教示内容など（抜粋）	議会活性化の取り組みは、議会改革に必要な調査・研究を行い、市民に開かれた議会を目指すために、閉会中も継続して取り組まれている。 視察目的であった「タブレット端末を導入した議会運営について」は、議案のペーパーレス化よりも端末導入を優先に進められ、IT分野に力を入れて議会改革を推進するとの説明であった。 議案審査の充実を図るためには、議会運営をスムーズに進めるために、休会日に代表者会議、議員全員協議会を開催し、協議を充実されている。 飯能市は、議会は基より、市政全般で表現力が豊かな市であると感じた。 ① タブレット端末を導入した議会運営について ・ペーパーレス化により、紙使用量削減とゴミ排出量削減、電気使用量削減に取り組まれており、環境対策として効果的な取り組みだと感じた。 ・タブレットを議員が常に所持し、全議員が同時に同じ情報を共有でき、議員間のタイムラグが解消できる。 ・ランニングコストを公費と政務活動費（第１世代）と個人負担とに分けて賄っているところは特徴的である。特に議員の個人負担を徴収することは、議員活動でも使用することを考慮すると納得できる。 ・災害時の緊急メールやその対応についても、有意義だと感じた。 ・（3市共通）タブレット端末導入は、事務の効率化や環境対策として効果的と考えるが、会議途中や緊急時においての端末の故障や、凍結、通信機能の不具合等が課題と感じた。 また、文章への個人的な書き込み、公開、非公開文章や個人情報の取り扱い、セキュリティ対策、バックアップ機能の充実と外部への情報漏洩、過去の資料との同時比較等も課題が残る。また、行政側と同時実施が必要と考える。 ② 議案審議の充実を図るための取り組みについて ・予算審査において、その詳細以外の歳入の審査は総務常任委員会で一括されているのは特徴的である。 ③ 議会の透明性を高める取り組みについて ・議長の立候補制と個人の発行している広報誌等の政務活動調査会は、有意義だと感じた。	議会透明化の基本である議長選出過程の見える化は、当委員会の課題であった。 秦野市議会では、特に「議長・副議長輸—選挙の所信表明公開の実施について」研修した。内容は簡単な事で、公開の場で本会議と全員協議会を順次行うことであった。 議場の多目的利用についても同じであるが、実施は簡単な事である。「マイナス思考ではなく、プラス思考」で、個々の議員が諸課題に向き合う姿勢と感じた。 その点、南丹市議会では、議員の姿勢に甘さがある。新聞報道で議員が何をしているのか解らないとあったが「イベント参加型の議員」が多い原因と感じた視察であった。 ① 議長、副議長の所信表明公開の実施について ・市民に開かれた議会を目指し、正副議長選挙の立候補制と所信表明を行い、議長選出の経過を透明化し、同時に市民に対し映像でその模様を配信されていることは、大変有意義だと感じる。 また、その目的や流れ、ネット中継にまで申し合わせ事項が設けられ、地方自治法にも配慮されていることが特徴的である。 ・こういった取り組みが、市民の市議会への信頼を深め、身近な存在として関心を持ってもらえるものだと感じた。 ・正・副議長の任期が異なるのは、違和感がある。 ③ 議場の多目的利用について ・多目的利用について、議会運営委員会で大阪府八尾市、大東市へ視察をされ、子ども議会や、コンサート、フラダンス等を実施されているとの視察内容であり、持ち帰り協議をされている。その後協議を重ねられ、「秦野市議会議場の多目的利用に係る基本方針」を詳細に決定されている。市民に開かれ、親しまれる議会を実現するため詳細に条件や制限等を基本方針に盛り込まれ、議会運営委員会において最終決定されている。 ・当市議会で実施するとなれば、単なる公民館や、会議室的な利用ではなく、議場を使用するという意義や趣旨を充分協議して進める必要があると考える。

◇　行　政　視　察　概　要　◇

委員会名	議会活性化対策特別委員会	
委員名	［委員長］ 松尾　武治 ［副委員長］ 山下　秋則 ［委　員］ 前田　義明 ［委　員］ 野村　健 ［オブザーバー］ 議　長　今西　不悖	［委　員］ 木戸　徳吉 ［委　員］ 柿迫　正紀 ［委　員］ 仲村　学 ［委　員］ 小中　昭 ［オブザーバー］ 副議長　廣瀬　孝人
＊　議会運営委員会と議会活性化対策特別委員会との合同視察研修　＊		
視察先	神奈川県南足柄市	
視察日時	Ｈ３０．５．２２（火）	
	午後１時００分 ～ 午後３時００分	
調査事項	①議会改革の取り組みについて ②タブレットを導入した議会運営について ③議会活動等の情報発信について	
教示内容など（抜粋）	面積７６㎢、人口４２千人で、コンパクトで効率的な市政が可能な自治体と思い視察に伺った。 特にタブレットを導入した議会運営についての取り組みを研修した。「汎用性がありどこでも使える」が活用に繋がる。「文書の共有、操作が簡単、セキュリティ対策、いつでもどこでも」が基本となり、システムは自宅PCでも使用可能となっている。 どのようなシステムを導入するかが、ポイントである。 ① 議会改革の取り組みについて ・議会改革の一つとして、７６，９３ｋ㎡の面積を考えるとうなずけるが、議員定数を８年間（2期）で２６人から１６人へと６１，５％に削減されたことは大きな改革だと思う。 ・無会派への代表質問を認められたことも、特異に感じる。 ・委員会における、職員の反問権があることも驚いたが、反論権まで認められていることは、活発な委員会討議が予想される。 ・代表質問に関する、関連質問を実施されていることは、良いことだと考える。 同一趣旨の一般質問も禁止されているのと比べると、南丹市においては、活発な討議になると考える。 ・市民ロビーに議会中継を放映されていることは、南丹市においても実施すべきと考える。 ・平成２９年３月の「市議会議員の議員報酬等の特例に関する条例」は、画期的な条例だと感じた。 ・議会に対し、教育長の所信表明が行われていることは、良い取り組みである。 ② タブレットを導入した議会運営について ・多くの自治体や議会において、同様の取り組みが実施されているが、南丹市においても前向きに取り組むべきと考える。 ③ 議会活動等の情報発信について ・議会のホームページにキッズページを作成されているのは、親しみやすい議会という観点からも良い取り組みだと考える。当市議会でも、わかりやすい議会について、掲載しても良いと思う。 ・議会報告会は、南丹市と同じような取り組みである。	

◇　行　政　視　察　概　要　◇

委員会名	広報特別委員会	
委員名	［委員長］ 市村　好高 ［副委員長］ 平野　清久 ［委　員］ 麻田　育良 ［委　員］ 木村　　裕	［委　員］ 谷尻　昌史 ［委　員］ 平田　聖治 ［委　員］ 吉田　尋子 ［委　員］ 八木　信樹
視察先	和歌山県橋本市	和歌山県紀の川市
視察日時	平成３０年１０月３０日（火） 午後１時３０分 ～ ３時００分	平成３０年１０月３１日（水） 午前１０時 ～ １１時３０分
調査事項	○議会広報の編集について	○議会広報の編集について
教示内容など （抜粋）	☆橋本市議会広報委員会での感想や気付き ①委員長のリーダーシップと行動力、発想力により、より良い広報誌の作成がなされていた。 ②表紙写真については、公募をすることにより、より市民の皆様に興味を持ってもらう工夫がされていた。 ③議会広報誌は、まず手に取って見たくなる表紙が重要であり、そのためには表紙写真が非常に大事であると実感した。橋本市では表紙写真を公募するほか、フリー素材から引用しており画期的であった。 また、発行時期の季節やイベントなどのイメージを持ち、写真を選択する必要性があると感じた。 ④一般質問は、紙面だけでは文字数制限があり、全てを伝えることは不可能である。しかしながら、議員の顔写真下にＱＲコードを張り付け、YOUTUBEで一般質問の動画への導きは非常に参考になった。積極的に採用すべきであると感じた。 ⑤議会広報紙の役割として、議会での議論の状況や議案審査の結果を報告することが重要と考えていたが、議会傍聴者を増やす目的での広報紙作りという新しい視点に気付いた。 ⑥企画記事で政務活動費を公開することは、他の自治体で見たことがなく参考になった。 ⑦橋本市の広報は、委員長のリーダーシップのみで成り立っている。もっと委員全員が積極的に取り組む姿勢が必要であると感じた。 ⑧橋本市の広報紙は、ホワイトスペースが少なく、字数が多過ぎである。表紙は素晴らしいが、開くと読む気を無くす感じがした。 ★南丹市議会広報紙での置き換え ①QRコードを利用してYOUTUBEの一般質問の動画やホームページに誘導するこは、本市においても実践すべきである。 ②表紙写真にはとことんこだわり、手に取ってもらえる表紙にする。 写真については、プロカメラマンに撮影してもらったり、広報特別委員会として一眼レフのカメラ購入やプロカメラマンによる勉強会も開催しても良いと思う。	☆紀の川市議会広報委員会での感想や気付き ①紀の川市議会広報委員会の委員の皆様は、広報委員になることを誇りに思い、よろこんで広報紙作成に携わっている点が本市とは明らかに違った。本市では、広報委員に対して新人の登竜門的な位置付けがあり、その裏には「めんどくさい」、「手間である」、「負担になる」などの感覚があると思われる。広報委員になれることを誇りに思えるような環境作りが必要であると感じた。 ②クリニックに申請して賞を取りたいとの強い思いを感じた。そのためには、貪欲的に議会広報紙の向上に取り組まれる姿勢を感じた。 ③各種イベントに参加する際も表紙写真をイメージし、各委員が積極的に写真を撮られる姿勢が見られた。 ④担当については輪番制にし、委員全員が広報紙の全てを理解する努力が伺えた。 ⑤見出しを見るだけで、概ね内容がわかるような見出しを付けることの重要性を感じた。 ⑥ホワイトスペースをしっかり取り、写真やイラストを多く用い、文字数を減らし、視覚的にスッキリ見やすい広報紙の作成がなされていた。 ⑦一般質問でされた内容を追跡し、現在の状況を伝える企画は素晴らしかった。しかし、誰の質問を採用するのかについては、議論の余地があると感じた。 ⑧広報委員会としての纏まりがあったが、前向きな議論をするためにも親睦を深める必要があると感じた。 ⑨市民は何を知りたいかなどの市民ニーズをつかみ、市民目線に立った広報紙の作成がなされていた。 ★南丹市議会広報紙での置き換え ①もっとわかりやすく、見やすい見出しに変更していく。 ②写真やイラストを多く使い、視覚的に入ってきやすい紙面とする。 ③クリニックに申請し、賞が取れるような紙面づくりをし、委員のモチベーションが上がるよう努力する。